

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年1月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104498
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす
所在地	鹿児島市谷山中央六丁目27番5号 (電話) 099-263-1771
自己評価作成日	令和6年12月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・慈眼寺通りに面した交通の便の良い立地。徒歩で買い物にも行ける。
・入居者様の健康管理や緊急時の対応について、協力医療機関、訪問看護ステーションとの協力体制が確立している。
・資格取得を目指している専門学校、短期大学の実習生の受け入れを積極的に行っている。そのため、入居者と若い世代の方との交流の機会が多い。
・面会に対してはコロナ禍での一定のルールを順守したうえで比較的緩やかな基準で面会を実施している
・季節の良い時期には毎日のように散歩に出かけ気分転換や地域とのかかわりを作っている

・当事業所は、周辺に医療機関やスーパーマーケット・飲食店・公園等があり、交通の便も良く賑やかな環境の中にあり、家族や友人等も訪ねてきやすい。
・献立も栄養士の助言をもらいながら利用者の希望を取り入れ、季節ごとの食材を使い、暖かい食事を提供している。
・家族の支援により外食や買い物・墓参り・外泊等の外出支援ができています。
・運営推進会議の出席者には家族代表や行政・地域の関係者を含め、地域との繋がりを大切にしている。
・感染症に配慮しながら、家族や知人等の馴染みの関係を大切に、面会の方法等にも工夫をしている。
・管理者は、職員の休憩時間は、時間を決めてしっかり取得できるように工夫している。職員の個人的な相談にも快く応じ、職員からの信頼も厚い。



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関及びリビングに掲げている。職員にも配布しネームの裏に所持し、いつでも確認できるようにしている。	理念は玄関やリビング等に掲示し、パンフレットにも掲載している。月1回の職員会議でも理念について話をする事が多く、振り返りも同時にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。回覧板をまわしてもらうことで地域の様々な情報を得ている。地域の清掃活動に参加している	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。専門学校生や介護実習生・中学生の職場体験等の受け入れをしている。年1回地域の清掃作業に職員が参加している。家族からの差し入れ等がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の学校の実習生の受け入れを行った。また、地域の方からの相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では困難事例を紹介し解決の手立て等を助言していただくこともあった。また、コロナ渦における周囲の対応を教えていただくことで施設としての対応を考えることができた。	2ヶ月に1回運営推進会議を対面で開催している。地域の民生委員の参加が常時ある。関係者へ議事録を送付して意見を聞いている。家族代表は毎回交代で参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者のご家族について包括、行政を交えて地域ケア会議を開催するなど協力関係を作ることができている。入退居の状況や空室数など3カ月おきにデータを送っている。生活保護課とも連携を取っている	支所の窓口に出書類を持参し報告したり、電話で相談している。地域ケア会議に参加している。生活保護の入所者がいる事で行政から訪問がある。市主催の研修は対面やウェブ研修で参加し職員会議で報告をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的開催している。内部研修や新入職者の研修でも、身体拘束について学ぶ機会を設けている。全職員で、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	マニュアルを基に身体拘束廃止委員会を、3ヶ月に1回開催している。年2回虐待やスピーチロック等を含めて研修をして、担当職員が資料を準備している。日中は施錠はしていないが、ユニット入り口は安全のため施錠をしている。外出希望者には、一緒に散歩をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で身体拘束や虐待について学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、ユニット1では制度を活用されている方はいないが職員会議の際に後見人について管理者が話す機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際は、重要事項及びグループホームの生活において事業所とご家族の協力支援体制について十分に時間をかけて説明させていただいている。些細なことでも気になることや分からないことはないか、確認し納得していただけるように支援している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段のコミュニケーションの中で、入居者様や、ご家族からの生活に対する要望を把握し、反映できるようにカンファレンスや職員会議等で検討している。また、ご意見箱を設置し、意見や要望等を伺う機会を設けている。	利用者には、日常の生活の中で意見を聞いている。花見に行きたいとか、食べたい物等について、家族へ連絡をする事もある。家族には、面会時や電話等で意見を聞く事が多い。毎月便りを発行して家族へ送付し意見を聞く機会としている。意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やカンファレンスだけでなく普段からなんでも話せる環境づくりに努めている	朝礼の時やユニットカンファレンスの時等に意見を聞く事が多い。普段から管理者は、話しやすい環境づくりに努めている。年2回個人面談を実施しているが、必要時も快く管理者は応じて意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の事業所の管理者で運営会議を月1回開催している。会議を通じて法人の代表者もそれぞれの事業所や、職員の状況を把握し職場環境や条件の整備を行っている。代表者は年に1回程度は事業所に顔を出している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を職員に担当させている。地域で開催されている研修も職員に呼びかけ、参加を促している。会社として役職者に介護保険制度に関するペーパーテストを実施し知識を深める取り組みを始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療生協の関連事業所として、民医連や医療生協主催の学習会等へ参加する事により、法人外の介護職との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居のご希望があった際は必ず本人様と面談を行い心身の状態や生活状況を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の悩みや現在の状況などこれまでの経緯について伺っている。その上で、グループホームとしてとして提供できるサービスを説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人や家族の状況をよく聴き、利用開始までの一連の手順をすすめている。空室がない場合や、解決すべき課題（状況）がグループホームの役割と異なる場合は、他の事業所のサービス利用に繋げるなどの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話をよく聴くことを大切にし、不安時など共感し安心できるよう努めている。また、生活の中で利用者の「できること」、「その人らしさ」を大切にし、役割づくり（洗濯物たたみ・お掃除等）自信を持ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に面会時や電話等で利用者の様子、取り組みを伝え、家族からの思いを聴き、情報交換を行うことで職員と家族が協力して利用者を支援していける関係づくりを行っている。毎月、おあしす便りを発行しご家族にスタッフからのご利用者様の様子を添付する等、面会に来にくいご家族にも現在のホームでの様子が分かるように勤めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族との面会や外出の機会が増えてきており馴染みの関係がきれないようにしている。テレビ電話を活用したりしている。	家族や知人・親戚等の面会は会議室にて予約制で行っている。家族から希望があれば、買い物や花見等に出かけている。手紙・ハガキ・電話等の取次ぎも行っている。理美容師の訪問があり、家族の支援により美容院へ行く場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に、お茶や食事、団らんの時間などに職員も一緒に入り利用者間の会話が円滑に出来るように取り組んでいる。また、利用者間の人間関係にも配慮し、座席の配置や役割作りなど利用者同士の関係が良好に保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族からの書類等の記入の依頼にも対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや考えを表現しやすい環境や雰囲気作りを大切にし日常の会話や行為、表情から利用者の思いや希望などの把握に努めている。また、把握が困難な利用者の場合、家族から情報を得たり、個別カンファレンスで職員それぞれの気づきを出し合い介護に反映させている。	日常の会話の中で意向を聞く事もあるが、居室でゆっくりしている時や夜勤時・入浴時によく話をされる。困難な人は家族に聞いたり、生活歴等から把握したり、仕草や動作・表情、声掛けの反応等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は家族相談や本人との事前面談で把握するようにしている。また、本人・家族の了解を取り、利用していた居宅介護支援事業所等から情報や認定情報等を利用し把握に努めている。利用開始後は本人との日常の会話や家族、知人の面会時のお話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム（食事量や嗜好、睡眠、排泄パターン、習慣、体調など）の把握を行い、行動や表情からの気づきを大切に利用者本人が「できること」を見出し、本人の全体像の把握に努めている。おやつ、食事は一人一人の能力、趣向に合わせてできるだけ自力での摂取できるような形態にその都度変えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、職員の意見をカンファレンスや日常のミーティング、介護記録等を通して把握し介護計画の作成に活かしている。	本人や家族等から思いを聞き、主治医や看護師等に意見を聞いて、カンファレンス時に話し合い、担当職員から意見を聞いて介護計画を作成している。計画は職員会議等で報告している。モニタリングは6ヶ月ごとに実施して、見直しもしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、職員の意見をカンファレンスや日常のミーティング、介護記録等を通して把握し介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、利用者の状態や家族の状況に合わせた定期や臨時の往診・受診など柔軟に対応している。拘縮等からADLの低下がみられる方に対して往療マッサージを進め、実施することで一定の成果が見られている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員にも参加してもらい、地域行事の情報や助言をもらっている。また、町内会長にも緊急連絡網に入ってもらっている。訪問マッサージや訪問歯科という地域資源も活用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身状態に変化があった際にかかりつけ医について相談し家族や利用者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更を希望される場合には、前主治医と連携し対応している。また、利用者の健康状態について、かかりつけ医と事業所が連絡・相談できる関係づくりを行っている。看取り支援開始時の家族との話し合いの場にも参加してもらえ関係を築いている。	入所前のかかりつけ医が継続している利用者や協力医療機関から月1回往診を受けている利用者もいる。必要時の往診の対応も可能となっている。24時間医療連携体制が取れている。他科受診は家族支援が基本となっている。訪問看護が2週間に1回訪問をして健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置や、訪問看護ステーションとの契約に基づき、日常的な健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。ターミナルケアの家族との話し合いの場にも出席してもらい、医療的な意見も得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医、看護スタッフ、家族との連携を密接にとり、できるだけ早期の退院ができるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成しており、利用開始時（契約時）に時間をかけて説明を行っている。また、重度化した場合には、家族や本人の意思を尊重し、協力医療機関や契約している訪問看護ステーションとの連携を取りながら事業所として対応し得る最大限の介護を行っている。家族の意向を確認するために同意書を作成し、状態に応じて話し合いの場をもっている。	マニュアルがあり、契約時にマニュアルに添って説明をして重度化した場合、同意書を書いている。主治医・看護師・家族・ケアマネージャー等の立ち合いのもと話し合いの場を設け、主治医は家族へ症状について説明し、今後の家族の意向を確認し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応については内部研修を行い、事故のケースごとの対応を周知している。夜間時の緊急対応についてはマニュアルを作成し周知徹底している。夜間に関しては緊急時の支援職員を決めてあり自宅待機して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震想定、夜間想定 of 災害対策自主訓練も行っている。また、地域との協力体制では、緊急時に町内会長へ連絡出来る協力体制を取っている。災害時に、近隣の建物への避難協力もできるよう依頼している。BCP作成している。	年2回昼夜を想定して地震や漏電からの火災予防訓練を実施している。訓練開始前に近所へお知らせをしている。備蓄は、水・米・缶詰・カップ麺等が3日分程度ある。懐中電灯・ランタン・利用者全員分のヘルメット等の準備がある。事業継続計画（BCP）を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の声かけはさりげない言葉がけに配慮している。また、失敗があっても出来るだけ周囲に気付かれないように配慮している。個人情報の取扱いについてはカンファレンスや勉強会で秘密保持の徹底に努めている。1人になりたい時には居室など好む場所で自由に過ごして頂けるように配慮している。	個人情報や権利擁護・接遇等について、年1回勉強会をしている。排泄時のドアの開閉・入浴時の更衣等では羞恥心へ配慮している。着がえ等は、自己決定できるような声掛けをしている。名前は苗字でさん付けで呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活場面において、利用者の希望や、「選ぶこと」、「自分で決めること」を大切に支援している。例として献立を考える場合「食べたい物」を利用者と話しながら作成したり、お茶時の飲み物やおやつ、入浴の際の衣類を選んで頂いている。活動時にも参加を声かけする際には選択できる声かけに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の日課はあるが、あくまでも全体的な目安とし、ひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって、起床時間、食事時間や入浴など柔軟に対応している。職員の都合を優先せず、「待つこと」を大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現ができるように支援している。理美容の訪問サービスでは好みの髪型になるように、希望を聴きながらカットや毛染めをしてもらっている。言葉の理解力に配慮し、選びやすい声かけを心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りに季節を意識したものを取り入れたり、利用者の希望を取り入れている。食事摂取量が少ない利用者には好きな食べ物を家族から教えて頂き、食事に出したり、嗜好に合わせた飲み物を提供している。本人の好きな食べ物を持参されることもあり、食事時やティータイム時に提供している	栄養士の助言で職員が献立を作成している。食事形態にも対応している。行事食も作っている。誕生日には好きな料理とケーキを準備している。利用者と台ふき等を一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導の下、バランスの取れた食事の提供ができるようにしている。水分チェック表、食事チェック表をもとにひとりひとりの摂取量の把握を行っている。食事摂取量の少ない方に対しては栄養補助の飲み物の提供など医師や家族と相談しながら行っている。また、好きなお菓子や果物、高カロリーゼリーでの補食も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の重要性を全職員が認識し、自分で出来る方は声かけし、出来ない方は毎食後に歯磨きやうがいの声かけを行い、必要な方は準備や介助を行っている。歯科往診や口腔ケア用具も必要時に検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握することで、安易におむつを使用せず、トイレ誘導を自立できる環境を整えている。尿意のない利用者は、適宜、誘導し、トイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して、日中はトイレへ誘導・声かけを行っている。排泄が自立している利用者が多い。こまめな声かけで便や尿失禁が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促すため、食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れている。また、レクリエーション活動等で身体を動かす機会を設けて、自然排便できるように取り組んでいる。腹圧のかかりにくい方に対しては腹部マッサージなども行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者一人ひとりの希望(湯温や順番・時間帯)に配慮している。入浴日の設定はしているが希望時には随時対応している(随時、入りたい時には入れることを伝えている)また、入浴剤を使用したりジェットバスを使用し気分良く入浴出来るよう心掛けている。	週2回午前中に入浴をしている。浴槽に浸かったり、シャワー浴の場合もある。入浴剤を使用している。入浴後は保湿剤を使用し皮膚の乾燥を防いでいる。希望によりジェットバスを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを大切にしている。また、利用者の体調や疲労度を観察し、昼寝や居室での休憩を促すなどの支援を行なっている。明かりの調節や音の調節にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の内容を把握できるように専用のファイルを作成し、薬の説明書を整理している。服薬の変更があった時は申し送りと、日勤記録に記入し職員全員が把握できるようにしている。与薬時は名前の確認を2者で行い、直接手渡し、服用されたか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力を発揮してもらい、喜びや自信が持てる様に支援している。本人の得意な塗り絵を提供したりよくコーヒーを自宅で飲んでいただ方にはお茶時にコーヒーを提供したりすることで楽しみを感じていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策を取ったうえでコスモスや桜を見に外出したり、天気の良い時には屋外でティータイムを摂ったりしている。散歩にも出ている	天気の良い日は、周辺や近くの公園へ散歩に出かけている。年間行事計画書を作成し、個別に花見・買い物・ドライブ等へ出かけている。家族の支援により、外泊・外出・外食・医療機関受診等の支援ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解できているが現在、お金を所持している方がいないが、買い物を希望されたときは本人と預り金を使用し買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様からのご要望あればご家族に電話をおかけしている。自分で携帯電話をお持ちの入居者が操作に不安がある時はその都度支援している。自筆が出来る方には年賀状に一言、添えて頂いたり、本人様からの言葉をお聞きして代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に隣接する形でキッチンがあり、包丁で野菜をきざむ音や、料理の匂いが自然としてくるなど、五感を刺激するような工夫をしている。また、フロアの壁を季節感も感じられるようにデコレーションし居心地良く過ごせる工夫をしている。	玄関に季節の花が生けてある。加湿器付きの空気清浄機がある。エアコンや温度・湿度計で事業所内を調節している。リビングの壁には塗り絵や折り紙・貼り絵・季節ごとの手作りカレンダー等を飾っている。テレビ・テーブル・椅子を設置している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置を気の合う方と近くになるように工夫しており、本人の希望に合わせて椅子を移動し、くつろいでいただいている。随時、席位置を検討し、一人や気の合う方同士で過ごせるよう配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の協力をもらい、出来るだけ使い慣れた家具や小物、写真などを持ち込んでもらうようにしている。	ベッド・クローゼット・洗面台・エアコン等の設置がある。寝具類は持ち込みで、遺影や仏壇・テレビ・家族写真・CDラジカセ・鏡・化粧セット等の持ち込みがあり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクを2ヶ所設置し、1ヶ所は利用者が作業がしやすい高さにしてあり、食器洗いなどをしてもらう際に利用している。また、廊下やトイレ、浴室などの手すりは利用者が使いやすく、自立した生活と安全性の面でも配慮している。居室やトイレには利用者がわかりやすい貼紙や、表札を工夫し、混乱を防ぐように努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

